



令和4年度

学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ～学ぶ喜びにあふれた学校をめざして～

令和5年2月24日

横浜市立高田小学校

3月号

見えない仕事

校長 赤坂 桂

2月10日 関東地方にも雪が降り、わずかな時間でしたが、校庭が一面真っ白の銀世界となりました。子どもたちは雪遊びを楽しみにして休み時間を待ちわびていましたが、遊べるほど積もらず、残念ながら内遊びとなってしまいました。

雪が降ると大人たちは困ります。道路は安全か、交通機関は動くか、と心配になります。学校でも門の周りが滑らぬよう整備しました。高田の町は坂道が多いので雪かきは欠かせません。きっと学校周りに限らず、地域のあちらこちらで雪かきをしてくださった方がいらっしゃったことでしょう。

こうした「人知れず誰かのために黙ってやっておく」仕事を見て村上春樹さんの小説を思い出しました。村上さんの作品に「雪かき」という比喻表現が登場してきます。それは「誰かがやってもいい仕事だが、誰かがやらなければいけないこと」という意味で使われています。内田樹さんの書評にはこう解説されています。

「雪かき」は誰の責務ではないけれど、誰かがやらないと結局みんなが困る種類の仕事である。プラス加算されるチャンスはほとんどない。でも人知れず「雪かき」をしている人のおかげで、世の中からマイナスの芽(滑って転ぶというような)が少しだけ摘まれているわけだ。私はそういうのは、「世界の善を少しだけ積み増す」仕事だろうと思う。

「雪かき」のような仕事は日常生活のあちらこちらにあって、人知れず誰かがやってくれていることで当たり前毎日が維持されています。見えない「雪かき仕事」に対して「誰かがやらなくてはならないのだから、誰かがやるだろう」と考えるのではなく、「誰かがやらなくてはならないのなら、私がやる」と行動できる人でありたいと思いますし、行動できなくてもそういう人の存在に気づく人でありたいと思っています。

まもなく卒業を迎える6年生には、こうした「見えない仕事」に気づくことのできる人になってほしいと願っています。乱れた本棚をそっと整える子、置き忘れられた上着を届けてくれる子など、高田小学校にも行動できる子がたくさんいます。誰かのために力を惜しまない、当たり前に行動できる、そんな中学生になってくれることを期待しています。

今年度はコロナ禍から徐々に日常を取り戻す1年でした。運動会、修学旅行、授業参観など、規模は縮小しながらも無事に行うことができました。子供たちの頑張りや保護者、地域の皆様のご協力のおかげです。1年間ありがとうございました。